

<table border="1"> <tr> <td>国名</td> <td rowspan="2">イスラマバード小児病院改善計画</td> </tr> <tr> <td>パキスタン</td> </tr> </table>	国名	イスラマバード小児病院改善計画	パキスタン
国名	イスラマバード小児病院改善計画		
パキスタン			

**I 案件概要**

事業費	交換公文限度額：647 百万円	供与額：583 百万円
交換公文締結	2005 年 8 月	
事業完了	2007 年 3 月	
相手国実施機関	パキスタン医科学研究所 (Pakistan Institute of Medical Sciences: PIMS)	
関連調査	基本設計調査 2004 年 11 月～2005 年 3 月	
案件従事者	コンサルタント	伊藤喜三郎建築研究所
	施工業者	飛島建設
	機材調達	伊藤忠商事
関連案件	我が国の協力： イスラマバード小児病院建設計画（1982 年、1983 年）(JICA 無償資金協力)、イスラマバード小児病院（1986～1993 年）(JICA 技術協力)、イスラマバード小児病院復旧計画（2003 年）(JICA 無償資金協力)	
事業の背景	<p>パキスタンでは過去 30 年間にわたり、年率 2% 近くと推定される急激な人口増加に伴い、小児医療へのニーズが高まっていた。イスラマバード小児病院は 1985 年に日本の援助を受けて設立された、小児医療専門の第三次医療機関兼教育病院である。同病院は少ない要員でより多くの手術を処理するため、手術室は 1 室 2 床であったが、高度な手術が行われるようになったことと院内感染防止のための国際的な医療基準をより厳しく適用するようになったことで、1 室 1 床の手術室が求められるとともに、医療施設の質と量の向上が必要となっていた。このような状況の下、パキスタン政府は日本政府に対して手術関連施設の整備のための無償資金協力を要請した。</p>	
事業の目的	アウトカム	イスラマバード小児病院において、新たな手術室の設置、既存の手術室の改善および関連医療機器の整備により医療サービスの向上を図る。
	アウトプット	<p>日本側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 手術室の増設、既存手術室の改修、排水処理施設の修繕、医療機材の補充</li> </ul> <p>相手国側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 増築用地の確保、仮設切回し工事、既存店舗等の移設、既設配管の移設</li> </ul>

**II 評価結果**

総合評価	<p>イスラマバード小児病院は事前評価時、小児医療へのニーズの高まりに対応してサービスの質・量の改善を必要としていたが、既存の手術室施設・機材が不十分な状態であった。</p> <p>本事業は、事業目的として目指したアウトカム（イスラマバード小児病院における医療サービスの向上）について、平均手術件数が事前評価時の 15 件から 2011 年には 24 件へと増加していることと、医師・患者は整備された施設や治療の質に概ね満足していることから、想定どおりの効果発現が認められる。持続性については、PIMS の上位組織であった保健省の廃止や保守要員不足、マニュアルの欠如、技術職員の再研修が実施されていないこと等から、体制、技術、財務、維持管理状況に問題が見受けられた。しかし、PIMS は保健省にかわる行政組織の方針・手続きを策定するなど問題への対応にあたっていた。また、維持管理状況は昨年からは大きく改善した。</p> <p>また、本事業の妥当性は、パキスタンの国家開発政策・開発ニーズ、および日本の援助政策と、事前評価・事後評価の両時点において合致しており、効率性についても、事業費・事業期間とともに計画内に収まった。</p> <p>以上より総合的に判断すると、本事業の評価は非常に高いといえる。</p>
------	---

1 妥当性	<p>本事業の実施はパキスタンの開発政策（1998 年までの国家開発 5 カ年計画、2005～2010 年中期開発枠組、ビジョン 2030 に掲げられた乳幼児死亡率および妊産婦死亡率の減少）、開発ニーズ（小児医療の改善および、イスラマバード小児病院の一地域のみならず全国におけるトップリフェラル病院としての改善の必要性）、日本の援助政策（乳幼児死亡率・妊産婦死亡率の減少、保健サービスおよびインフラの改善）と事前評価・事後評価の両時点において十分に合致しており、妥当性は高い。</p>
2 効率性	<p>本事業は事業費、事業期間ともに計画内に収まり（それぞれ計画比 90%、100%）、効率性は高い。</p>
3 有効性・インパクト	<p>本事業の実施により事業目的は概ね達成された。まず定量的側面については、手術件数が事前評価時から 2010 年度までの間に急激に増加し、検査件数も増加傾向にあった。しかし、手術待ち時間の減少については、外来患者数の急増や慢性的な人員不足などにより、事前評価時の想定には達していない。また、この人員不足により、本事業にて新たに設置された三つの手術室のうち第 5 手術室が使用されていない状況にある。現時点では国全体の財政が厳しく、同手術室を使用するために必要な人員雇用のための予算が確保できないが、この問題は PIMS および関係当局が検討中である。なお超音波診断数は、他の病院にも超音波診断装置が導入されたことで増加しなかった。</p>

次に定性的側面については、イスラマバード小児病院の医療サービスおよび複雑な症例への専門的対応に対する患者の信頼が高まっていることが挙げられる。また、患者がアフガニスタンからも来ていることは、医療サービス向上の効果を示しているだけでなく、同病院が非常に広い地域において第三次医療機関としての地位を確立していることを示している。病院排水による自然環境へのマイナスのインパクトは特に確認されなかった。排水の水質モニタリングは現在行われていないが、PIMSは病院排水管理のための予算を政府に申請済みである。以上のことから、本事業の有効性・インパクトは高い。



手術室用機材の整備により  
手術が容易になった。



口唇裂患者の報告を検討する  
小児外科医

#### 定量的効果

指標（単位）	2004年 （基本設計年）	計画値 2010年 （目標年）	実績値		
			2009/2010年* （目標年）	2011年 （事後評価年）	
手術件数（大・小）（件/年および件/日）	4,500件/年または 15件/日	5,400件/年または 18.75件/日	6,699件/年	24件/日	
手術待ち時間（カ月）	6	4.5	6	6	
診断・検査 件数	X線診断（件/日）	54-59	69-74	182	N. A.
	超音波診断（件/日）	12-15	18-23	13	N. A.
	臨床検査（件/年）	189,400	353,500	338,567	N. A.
排水処理量（m <sup>3</sup> /日）	0	20	20	20	

出所：PIMS統計部、イスラマバード小児病院医療管理情報システム

注：\* パキスタン会計年度（7月～6月）

#### 4 持続性

運営維持管理の体制面につき、PIMSの上位組織であった保健省の廃止による不確実要素がみられる。PIMSは現在新たな監督機関に対応するための方針および手続きを最終化している。また実施機関の技術は、機材の維持に必要な技術要員の配置不足や再訓練の不備、マニュアルの欠如等により一部問題があると判断できる。同様に、予算不足により重要機材・スペアパーツの適時の更新に問題があり、維持管理水準を維持するのが困難となっている。もっとも、イスラマバード小児病院は日常的に適切に機能しており、手術件数や診断・検査件数も増加している（上記「有効性・インパクト」参照）ことから、上述した問題は効果の継続に深刻な影響を与えてはいない。したがって、本事業によって発現した効果の持続性は中程度である。

### III 教訓・提言

実施機関への提言：

- 第5手術室の有効活用のためのPIMSの努力継続による、外科手術ニーズ増加への対応。
- 維持管理予算の適切かつ持続的な確保のための努力継続。
- 特に神経外科、外傷・形成外科の分野における、イスラマバード小児病院人材育成戦略（職員数および再訓練）の策定